

修正箇所を太字、下線で示しています。

### (5) 活断層

対象事業実施区域及びその周囲の活断層の状況を表 2.3.3(1)～(2)及び図 2.3.9 に示す。

対象事業実施区域周辺では、松本盆地東縁断層があり、高瀬川左岸側及び犀川右岸側の台地や段丘に沿って、活断層と推定される線が示されている。活断層と推定される線は図 2.3.6(1)にも同様に示されており、推定される線は対象事業実施区域から 800m 程度離れた位置にある。

表 2.3.3(1) 活断層の状況

1	神城断層
2	鹿島川沿い
3	松本盆地東縁断層
4	寺海戸断層
5	常念岳断層
6	松本市中山丘陵東側
7	牛伏寺断層
8	赤木山断層
40	信濃坂断層

注 1) 表中の番号は図 2.3.9 に対応している。

注 2) 松本盆地周辺の断層のみ抜粋。

出典：「<新編>日本の活断層-分布図と資料」(1991年 東京大学出版会)

表 2.3.3(2) 活断層の状況 (詳細)

番号	断層名	確実度 <sup>注1</sup>	活動度 <sup>注2</sup>	走行	断層形態	変異基準
3	松本盆地東縁断層	II	C	NNW	高度不連続	丘陵高度
	大町市丹生子		B		断層露頭	段丘礫層
	青木湖			NS	高度不連続	湖底
	木崎		C	NS	高度不連続	湖成段丘
	池田町堀之内		B		逆むき低断層崖	扇状地

注 1) 確実度 I : 活断層であることが確実なもの、確実度 II : 活断層であると推定されるもの  
確実度 III : 活断層の疑いのあるリニアメント

注 2) 活動度 A : 1,000 年あたりの平均的なずれの量が 1 m 以上 10m 未満  
活動度 B : 1,000 年あたりの平均的なずれの量が 10cm 以上 1 m 未満  
活動度 C : 1,000 年あたりの平均的なずれの量が 1 cm 以上 10cm 未満

注 3) 表中の番号は図 2.3.9 に対応している。

出典：「<新編>日本の活断層-分布図と資料」(1991年 東京大学出版会)

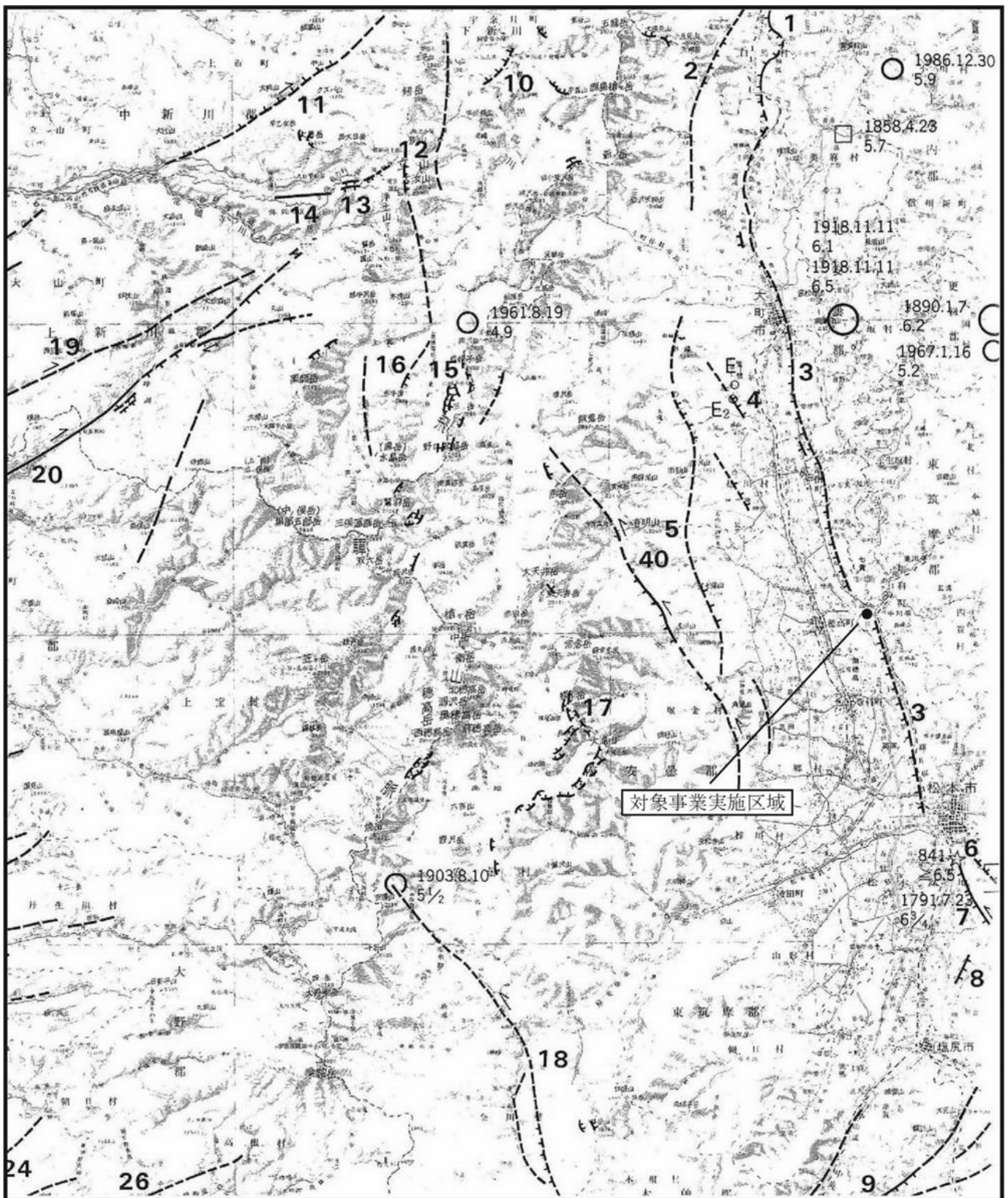
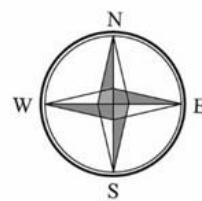


図2.3.9 活断層の状況

凡例

- 陸上活断層**
- 活断層であることが確実なもの (確実度Ⅰ)
  - - - - - 活断層であると推定されるもの (確実度Ⅱ)
  - · - · - · 活断層の疑のあるリニアメント (確実度Ⅲ)
- 短線は必ず下の低下側を、矢印は必ず上の向きを示す。
- ..... 伏在断層
  - 地震断層
  - × 露頭 ☆ トレンチ調査地点

- 活傾動**
- 地形面の傾き下る方向
- 地震**
- |   |   |
|---|---|
| □ | ○ |
| □ | ○ |
| □ | ○ |
- 1884年まで 1885年~1987年
- M 7.0 以上  
○ M 6.0~6.9  
○ M 5.9 以下
- 記号に添えた数字は発生日とマグニチュード、太線は深さ 30 km 以上の震央を示す。



Scale 1/333,330

